

新除草・調節剤

ラウンドアップ®

グリホサート除草剤

事務局：日本モンサント株式会社

取扱会社：クミアイ化学工業株式会社

三 共 株 式 会 社

対象場面：ミカン園・水田畦畔・休耕田・水田耕起前・桑園。

成分および含量：本剤は、N－（ホスホノメチルグリシン）のイソプロピルアミン塩を41％含有する黄かっ色水溶性液体である。

特性：本剤は次の特性をもつ。①茎葉吸収移行型（地下部指向性）、②非選択性、③土壤中不活性化され作用がなくなる、④微生物により分解され安全な物質となる、⑤非常に低毒性である。

特徴：これら5つの特性より以下の特徴を生ずる。

①茎葉吸収移行型（地下部指向性）

- ・雑草、とくに多年生雑草を地下部まで根絶し、長期間防除する。
- ・枯殺した雑草が倒伏するので管理作業が容易となる。また敷草効果も発揮する。
- ・少量の散布水量で、省力的に散布できる。

②非選択的殺草作用

- ・ほとんどすべての雑草、雑かん木を本剤の濃度を調節するだけで枯殺できる。

③土壤中不活性

- ・土壌を介して有用植物に影響を及ぼすことはない。
- ・散布直後の作物播種・移植が可能である。

④微生物により分解され天然物質となる。

- ・永年使用しても土壌や自然環境を汚染しない。

い。

⑤低毒性

- ・取扱いが容易で安心して使用できる。

殺草のメカニズム：本剤は、非ホルモン系の茎葉吸収移行型除草剤で、散布されると緑色の茎葉部より吸収され、雑草全体に移行し、特に地下部・地上部の生長の盛んな部位に移行分布し、蛋白質の合成を阻害して雑草を枯殺する。従ってその作用は比較的緩慢で、一般に一年生雑草で7～10日、多年生雑草では14～30日ぐらいかかる。本剤の植物体内移行は、茎葉で光合成された同化物質の転流にのって行なわれる。従って多年生雑草の根絶を目的とする場合、地下部への転流の多い時期すなわち雑草の花芽形成期から開花期および開花後の生育期に散布することが大切である。

人畜毒性：普通物

マウス経口急性毒性…LD₅₀ 10,000 mg/kg以上

マウス経皮急性毒性…LD₅₀ ♂ 6,250 mg/kg

♀ 7,810 //

ラット経口急性毒性…LD₅₀ ♂ 11,343 //

♀ 10,537 //

ラット経皮急性毒性…LD₅₀ 7,500 mg/kg 以上

魚毒性：A類

コ イ…48時間 TLm 119 ppm

ミジンコ…48時間 TLm 192 ppm

土壌中での分解

微生物により、水、二酸化炭素、アミノ酸、リン酸、天然酸、天然生成物に分解され、半減期は約16日（畑条件）である。

使用方法：今回登録となった使用基準は次の通りである。

新除草・調節剤

適用場所	適用雑草	使用時期	10アール当り		使用方法
			使用量	散布量	
みかん園、休耕田	一年生雑草	雑草の生育盛期・	250～500cc	50～100 l	雑草茎葉散布
	ヨモギ・ギンギシ・カタバミ類・カラムシ・チガヤ・ハマスゲなどの多年生雑草	雑草の生育盛期～開花期およびその後の生育終期・	500～1000cc		
	ススキ・ネザサ		1000cc		
桑園、水田畦畔、水田(耕起前)	一年生雑草	雑草の生育盛期・(但し桑園では桑の発芽前または夏切り後発芽前、水田(耕起前)では耕起前20～40日)	250～500cc		
	ヨモギ・ギンギシ・スイバ・チガヤなどの多年生雑草		500～750cc		

・使用量と散布液量の関係から雑草別に希釈倍数の散布液を調整して散布するのが便利である。

主 な 対 象 雑 草	希 釈 倍 数
・一年生雑草	200～400 倍
・ヨモギ・スイバ・ギンギシ・カラムシ・カタバミ類・チガヤ・キシュウスズメノヒエ・ハマスゲなどの多年生雑草	100～150 倍
・ス ス キ	100 倍
・サ サ 類	50 倍

一年生の広葉雑草を主対象とする場合は一年生雑草用の多めの薬量濃度を使用する。

使用上の注意：

①本剤の特徴は多年生雑草の地下部まで枯殺することにあるので、雑草茎葉への付着量、吸収量そして地下部への移行量を多くすることが重要である。そのためには雑草の茎葉量が多く、同化物質の地下部への転流の多い花芽形成期から開花時および開花後の生育期（一般に夏期から秋期）に散布する。多年生雑草の茎葉のみの枯殺を目的とする場合は緑色茎葉のある時期ならばいつでも散布できる。

なお、一年生雑草の防除については、本剤は土壤処理効果がないので雑草の発生が揃い、草

丈が約15 cm以上の生育盛期に散布する。

②本剤は雑草の種類によって適正な濃度が異なるので、目的雑草とあわせて調節する。

③本剤は雑草の茎葉のみに付着させることが重要であるので、散布液量は10アール当り50～100 lを基準とし、散布液が雑草の茎葉から流れ落ちないように茎葉全体に均一に付着するように加圧式散布機で散布する。

④本剤の希釈に使用する水は清水を用い、他農薬、肥料などとの混用は行なわない。なお展着剤はすでに含まれており加用する必要はない。

⑤散布後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、散布後降雨が予想される場合は散布をみあわせる。

⑥激しい乾燥や病害虫の加害などにより雑草の生育がおとろえている場合や、土ぼこりなどにより雑草の茎葉の汚れがひどい場合には効果が劣ることがあるので生育が回復するか、降雨のあとで土ぼこりが落ちたときに散布する。

⑦本剤は散布後、茎葉より吸収され地下部へ十分に移行するまでに7～10日かかるので、散布後少なくともこの期間内に地上部を刈り払ったり、耕起しない。

⑧作物や付近の有用植物に散布液が飛散すると薬害を生じ、場合によっては枯死することもあるので、散布機のノズルや圧力を適切に調整する。またノズルカバーなどを利用する。

⑨裸地化して土壤流亡やくずれる怖れのある場所(ノリ面など)には散布しない。

⑩湛水状態となっている場合は、雑草の茎葉が $\frac{2}{3}$ 以上水面の上に出るまで落水してから散布する。

⑪本剤の散布や調整に使用した器具類は、使用后十分に水洗いする。